

◆ 平成 28 年度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：ハチドリくらぶ

19A-31

代表者：代表 嶋田照子

URL : <http://ccs0527.wix.com/hachidori>

1. 活動が必要とされた状況

平成 24 年の熊谷市の市民一人（一日）あたりのごみ量が、1,159 g で埼玉県一多いと新聞報道されたのを受けて、当団体ではダンボールコンポストを使っての生ごみ減量に取り組むことを決断した。安くて手軽、土地が無くても実施できるダンボールコンポストの長所を生かして、市民 1,000 人が取り組むことをめざして来た。平成 28 年度は、普及拡大を図るため、サンプル箱を製作して市内の小学生に自由研究のテーマに活用することとした。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

平成 28 年度の前半の活動では、市内の小学生を対象に夏休み科学教室「生ごみがヘンシン」を開催して、自由研究として自宅の生ごみでダンボールコンポストを作るというテーマを提供した。小学生のうちから生ごみ減量を意識づけできれば、着実に利用者拡大につながることを期待できるとともに、家族で取り組めば、学校から地域へと普及して、1,000 人の目標に近づくことができるのではとの考えからであった。

併せて、後半では、成人向けとして、熊谷市のごみ減量対策事業と連携して、基材の無料配布とアンケート回収を行った。

(1) 夏休み科学教室

7 月 23 日（土）：13 名 7 月 30 日（土）：9 名 と 2 回開催して、合計 22 人の参加があった。各々自分のデザインで飾りつけを行った。

(2) まとめの交流会

科学教室に参加した子供達の自由研究の成果発表会を 8 月 20 日（土）に市立中央公民館で開催した。17 名が参加、研究成果を発表した後、参加者みんなで昼食のカレーを食べた。

(3) モニターによる普及

熊谷市が実施するごみ減量対策の一つとして、エコショップキャンペーン事業があり、市内 7 箇所の量販店で実施されたが、それに連携しながら、30 人に基材を無償配布し、アンケートを回収した。（アンケートは、現在集計中である。）



3. 活動の成果

今回の助成事業では、生ごみの減量利用者拡大の方法を再構築するために小学生を対象に夏休みの自由研究とすることで、家族も含めた利用者拡大を期待しながら 1,000 人の目標に近づける一歩となることができた。

4. 今後に残された課題

夏休みの自由研究が好評であったので、引き続き実施したい。さらには、過去に製作できなかったテキストを製作する。また、標準のダンボール箱とコンポストの基材の供給体制を整備するとともに出来た堆肥を利用するための循環農園などが課題で残っている。